

シューベルトの歌曲集「冬の旅」(5) — 歌手とピアニストの為の演奏と解釈 —

野々垣 文 成

18. 嵐の朝

この18曲目の‘嵐の朝’を解釈するとき誰もが思い起こす曲があるであろう。それは第12曲目の‘孤独’である。静かな明るい気候と平穏な世の中で若者自身の境遇と心の憂鬱を見事に表現している。この‘嵐の朝’では‘孤独’とは対照的に若者を元気づけ、又その表現は彼の不機嫌さと合致している。基本的に若者は彼の心の思い同様に嵐の朝のような激しさを好むようになっている。曲は非常に力強くきびきびとした旋律をもち、その旋律のほとんどはピアノパートのユニゾンに乘せられ、一見まるで嵐の突風にほんろうされている様であるが、音楽は簡素で美しく若者の感情と嵐の凄まじさをたくみに表現している。歌詞の内容としては一嵐が空の灰色の衣を裂いてしまった。ちぎれ雲は戦いに疲れて乱れ飛び、そして赤い電光が雲間に走る。これこそ私の心に描いていた朝だ。私の心はあの空に描かれた自分自身の姿を眺める。それは冷たく荒々しい冬、そんな冬にほかならないのだ。—と歌っている。テンポとしてはZiemlich geschwind doch kräftig [かなり速く、そして力強く] という表示である。実際のテンポとしては♩=92位が適切であろう。そして、この曲が歌われている状況について述べてみたい。嵐はまったく衰えをみせず常に吹き荒んでいる。冷たい雨、立っていることもままならぬ強い風、このような嵐は日本には存在しなく冬のヨーロッパ独特のものであろう。ピアノパートの前奏部はユニゾンの音型から出発しているがこれは嵐の激しさを端的に表現している。〔譜例1〕第1小節の16分音符と8分音符の演奏のしかたは8分音符のほうが16分音符よりたっぴりと演奏するとスタッカートはより効果的になるであろうし、第2小節目の3拍の和音にたやすく、又自然に到達できるであろう。この場合の

和音は雷を意味しているものと思われる。〔○印〕又、16分音符の3連音符部分は稲妻を表している。〔△印〕和音以外はベタルは使用するべきではない。アクセントの効果も十分に意識しなければならない。歌手はユニゾンのピアノパートにのせられて激しく歌いだす。〔譜例2〕歌手は元気に激しく歌いですが、16分音符部分はいくまで慎重にしていねいに演奏したい。ピアノパートはスラーとスタッカート部分をはっきりと区別して荒れ狂う嵐を表現しなければならない。第6、7小節の‘unher in mattem Streit’の部分は歌声部はいくまでピアノパートの様に演奏しなくてはならない。〔一印〕この場合はドイツ語のイントネーションは残念ながら無視しなければならない。第7小節目、2度目の‘unher in mattem Streit’はピアノパートはスタッカートであるが歌声部はレガートで歌う。第8小節の4分音符は〔○印〕乱暴に、荒々しく演奏し最後のtははっきりと発音する。間奏のピアノは稲妻と雷である。第10小節からの4小節がこの曲の中間部であるが内容的には変化してはいない。第11小節のピアノパートの単前打音〔譜例3〕は前打音として演奏される場合が多い。前打音で演奏されると響きが心地よすぎるので演奏者は表現を内容にそって的確に演奏しなければならない。第16小節から歌声部とピアノパートは一心同体の演奏を最後まで続けなければならない。〔譜例4〕ピアノパートの鳴り響く雷鳴は恐ろしく表現しなければならない。最後の節の‘der Winter Kalt und wild’はピアノパートと同様にスタッカートで、しかも前述の第8小節のように乱暴に、荒々しく歌いおえる。〔●印〕‘kalt’‘wild’の語尾ははっきりと発音しなければならない。この最後の部分は「冬の旅」の本質が凝縮されているので演奏者は聴衆に客観的に演奏し表現したい。

[譜例1]

Musical score for Example 1, piano part. It consists of two systems of music. The first system has two staves (treble and bass clef) with a common time signature. The music features a melody in the right hand and a bass line in the left hand. Dynamics include *f* and *fz*. There are accents (>) and a triplet of eighth notes in the right hand. The second system continues the piece with similar notation and dynamics.

Musical score for Example 1, vocal part. It consists of two staves (treble and bass clef). The melody is written in the treble clef. It includes a triplet of eighth notes and a final chord with a sharp sign (#).

[譜例2]

Musical score for Example 2, first system. It includes a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line has the lyrics: "Wie hat der Sturm zer - ris - sen des Him - mels grau - es Kleid, die". The piano part has a bass line with a triplet of eighth notes. Dynamics include *fz* and accents (>).

Musical score for Example 2, second system. It includes a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line has the lyrics: "Wol - ken - fet - zen - flat - tern um - her in mat - tem Streit, um - her in". The piano part continues with a bass line and a triplet of eighth notes. Dynamics include *fz* and accents (>).

8 ○ ○ ○

mat - tem Streit.

This musical score consists of three staves. The top staff is a vocal line with three circled notes above it. The middle and bottom staves are piano accompaniment. The key signature has one flat and one sharp, and the time signature is 4/4. There are accents (>) over the piano accompaniment notes.

[譜例 3]

zwi - schen ih - nen - hin,

This musical score consists of three staves. The top staff is a vocal line. The middle and bottom staves are piano accompaniment. The key signature has one flat and one sharp, and the time signature is 4/4. There is a fermata over a note in the piano accompaniment.

[譜例 4]

es ist nichts als der Win - ter, es ist nichts als der Win - ter, der

This musical score consists of three staves. The top staff is a vocal line. The middle and bottom staves are piano accompaniment. The key signature has one flat and one sharp, and the time signature is 4/4. There are *ffz* markings in the piano accompaniment.

Win - ter kalt und wild.

This musical score consists of three staves. The top staff is a vocal line. The middle and bottom staves are piano accompaniment. The key signature has one flat and one sharp, and the time signature is 4/4.

19. 幻覚

若者が幻覚にまどわされるのはこの曲が初めてではない。第9曲の「鬼火」である。「鬼火」では運命に逆らいながら足を引きずって歩いた。しかしこの「幻覚」では若者は無責任な気軽さで踊っている光の後を追って自分自身をゆだねていくのである。第9曲から10曲進んだ間に若者の心の変化はどのようになってしまったのであろう。彼の頭の中はすでに強く正気を失っている。「鬼火」ではまだ運命に逆らうエネルギーを蓄え持っていたのである。テンポ表示は*Etwas geschwind*〔少し速く〕であるが〔少し速く〕という解釈ではなく〔速く感じて〕のほうが妥当であろう。♩ = 69位であろう。前奏でピアノは踊っている人をまどわす光を表している。〔譜例1〕ここでくり返されるオクターブの旋律がこの曲全体を通しつこく支配している。第3小節の*eis*〔#ミ〕から第4小節に向かって踊っている光が逃げていく様子表現している。タッチは最も軽く又優雅な響きを要求する。このオクターブのピアノパートは声部間の間奏である2小節を除いて常に声部の下にひそんでおきたい。間奏部の中でも特に第12、13小節、第20、21小節、第37小節は前述の前奏と同じ意味合いをもつ。左手の8分音符は常に踊っているリズムである。2分の2拍子と感じるのが妥当であろう。又、この左手の2拍目にでてくるアクセントはタイミング的にすこし遅れた感じで演奏するとよい。それは曲全体を支配している。誘惑的で、嘲笑そのものである。若者は魂の根底を破壊され不可思議な精神状態のまま歌いだしている。〔譜例2〕若者は踊っている光の気ままさも嘲笑も全く無視し、

彼の真意とは裏腹に一見楽しそうに、軽快に跳びはねるように歌いださなければいけない。歌詞はあくまでもはっきりとさせたい。第6～8小節にかけ*'tanzt'*〔踊る〕を生かした表現を必要とする。第7小節目の前打音は表現のポイントである。この前打音はむしろ単前打音のほうが適切であろう。より軽妙に、おどけた様子になるためにもそうすべきである。第19、39小節にでてくる前打音は〔譜例3〕のように演奏するとよい。なぜなら前述のとおりこの曲の精神に沿うからである。第22、23小節は突然の短調である。〔譜例4〕しかし演奏者はその変化を強調しすぎたり音色を暗くしないほうがよい。この曲の本質に沿うためである。ここでは単に短調に転調していることで充分である。強調しすぎると音楽の表現がやりすぎになり、内容がより深刻になってしまうであろう。第28～30小節の間は緊張感を保ちながらこの曲唯一のクレッシェンドをかけながら半音階を上行し*'Graus'*〔恐怖〕までたどりつける。〔譜例5〕そして第31小節目からは以前の軽快な流れを取戻し*'ein helles, warmes Haus'*にたどりつくのである。歌手は最高にやさしく包容力を持って演奏したい。歌詞の内容は「光がひとつ、私の前を親し気に踊っていく。あちらこちらと私は光のあとを追う。私は喜んで光のあとを追う。しかし、その光は若者をまどわすつもりだなと思う。ああ、私のようにとてもみじめな者は色とりどりの幻覚にふけりたいのだ。その幻覚は、氷と闇と恐怖の向う側に、明るく暖かい家とその中にいる愛すべき娘を若者に見せてくれる。私の手に入るものは、この幻覚だけなのだ。」と歌っている。

[譜例 1]

A piano accompaniment score in G major, 6/8 time. The right hand features a melodic line with eighth notes and some slurs. The left hand provides a harmonic accompaniment with chords and eighth notes. A dynamic marking of *p* is present at the beginning.

[譜例 2]

A vocal line in G major, 6/8 time. The melody is simple and lyrical. A fermata is placed over the final note. The lyrics are: Ein Licht ——— tanzt freund-lich vor — mir her ——— ;

[譜例 3]

A vocal line in G major, 6/8 time. The melody consists of a few notes followed by a rest.

[譜例 4]

A piano accompaniment score in G major, 6/8 time. The right hand has a simple melody. The left hand has a bass line with chords. The lyrics are: Ach, wer wie ich so e-lend

[譜例 5]

A vocal line in G major, 6/8 time. The melody is simple. The lyrics are: die hin - ter Eis und Nacht — und Graus —

20. 道標

若者は通りを避け、雪の積もった人の通らぬ道を選んで行く。はかないあこがれゆえに……町を指す道標を見ても、若者はもう一つの道をたどっていく。その道は人がふたたび帰って来たことのない死への道なのである。この‘道標’は後半の12曲中最も規模の大きな曲である。そしてこの詩にシューベルトは本当に適切な音楽をつけている。詩の内容は……なぜ私は他の旅人たちの行く道を避けて、雪におおわれた岩山に隠された道を探すのだろうか人目をはばかるようなことを私はしていない。なんとはかない望みが私を荒野に駆り立てているのだろうか。道標が道端に立っていて、町へ行く道を指している。私はどこまでも休みなく憩いを求める。私の目の前に道標が一つ動かずに立っている。まだ誰も帰ってきたことのない道を行かねばならない。と歌っている。……若者の真理と歩いていく様子が一体化して目の前に浮かんでいる。テンポはMäBig [ほどよい速さで] とあるが若者は散歩をしているわけではないので本来のMäBigよりも速めに感じなければならないであろう。しかしテンポはあくまで一定ではなく曲の最後に向かってほんの少しづつゆっくりになっていくべきであろう。自然に♩ = 63ぐらいであろう。目的を持ったテンポということである。しかし、この曲はテンポ設定を示唆する個所が随所にひそんでいる。例えば第12、14小節目のピアノパート部分、この部分は若者の心の同様を表しているだけではなく、歩いている最中のつまずきの音である。テンポ次第でこの部分が妙に飛び出してしまふ。適正なテンポを要求したい。〔譜例1〕歌声部分では第17、18小節の部分である。ここに出て来る32分音符ははっきりと演奏しなければならない。なぜならこの部分の音型は若者の気持ちと動きを駆り立てている個所である。あまり速過ぎても無表情になり、歌詞も表現出来なくなってしまう。〔譜例2〕この前奏は〔譜例3〕物悲しく、しかし躊躇せず死への道程を迷わず進んでいく張り詰めた感じを出さなければ歌手は歌い出しでもはや混乱してしまう。この前奏の一つの問題点にふれてみよう。第5小節目の4分音符であるが歩き続

けている内容の曲であるのにもかかわらずもはや止まってしまっている。このことに関しては偉大なる伴奏ピアニストのジェラルド・ムーアも記しているところだが、この第5小節目をカットして第4小節目から歌いだしたほうが自然ではないかと。〔譜例4〕私自身はそこまでは思わないが、シューベルトの他の歌曲においても同様な例がある。シューベルトの代表作の‘鱒’もその一例である。〔譜例5〕前奏部の第6小節目で清らかな流れは止められている。本来は2番を歌い出すときの方が自然の流れであることは確かであろう。〔譜例6〕問題をもとに戻そう。この前奏部分でピアニストは聴衆に若者もはや死への道程を歩きだしていることを暗示しなければならない。歌声部の始まり部分の二つのフレーズの頂点〔Wege, andern〕はこの場合あまり強調しないで歌い過ぎるのがいいであろう。なぜならばこの曲全体を支配している8分音符からも感じとれるように若者は自分の意志に反して歩かされているのである。つまり、不承不承、不本意であるかのような印象を受ける。ピアノパートはわずかな上行と下行をくり返しあたかも丘陵の道をさまよっている感じである。なめらかに演奏をしなければならない。第13小節目のバスがdes〔変二〕に下行することによって響きはますます暗く落ち込んで来る。

〔f・mollに転調〕気分はかなり沈んでしまっている。しかし、第16小節目のバスの旋律によって歌声部はふたたび盛り上がり、若者のかすかに残っている意志が感じられる。このパッセージによって次の部分〔G・dur〕に導かれていくのである。〔譜例2〕第2節のパッセージの始まりは薄く明るくそれはまるでドイツの初冬の青空のように心持たない薄い青色のごとくに演奏したい。哀れさを感じさせるように歌い出し第28小節を頂点に……welch ein törichtes Verlangen……〔なんと馬鹿げた望み〕歌う。その時のピアノパートは突如止まっている。しかも*fp*の表示の意味も同時に考えなければならない。当然であるが若者の内的なとまどいも急に高められている。歌声部はこの動きにそって苦悩を表現しているのである。〔譜例7〕第33小節からの間奏は少しの抑揚をつけながら徐々に弱めてい

く。しかし厳密に分析すれば第33小節の *pp* は第35小節に移動した方が表現は適確になる。〔譜例8〕第40小節目の休符について考えてみよう。この1拍半の休符には特別な意味がある。この休符で若者は道標の前で歩みを止めどちらかの道を選択している空白である。若者は周囲を見まわしているのであろう。前述の前奏部の空白とは全く違っている。第3節はふたたび短調にもどり第1節のように歌いだすが、第48小節目から突然旋律は思いがけなく変化をする。

〔譜例9〕旋律はこの曲の他の部分には見られないほどの激しい絶望感を表現している。第52, 53小節の 'und' は最高音であるにかかわらず接続詞であるから強く歌ってはならない。

〔○印〕 そうしないと 'suche Ruh' [安らぎをさがす] が生きてこない。これは歌手としてかなりの冷静さと高度なテクニックを要する。しかし音楽的な感情表現を忘れてはならない。そしてピアノパートは第1節の旋律を保ち感情の高

まりを相互でおこなっている。第4節に入ると音楽は全く簡素化してしまっている。歌声部は短3度の動きを大きく2度くり返し厳しさを増長している。〔譜例10〕第65, 76小節のD音〔レ音〕で一応解決しているように感じられる。〔○印〕しかし第65, 76小節目の *f* がそれぞれつぎの小節では *p* になっているのでそのダイクレッシェンドのかけかたが問題になるであろう。感情移入され気持ちがそのまま単純に表現されるべきであろう。決してリートの枠を超えてはならない。またピアノパートのバスの動きも半音階的上行によって不吉な感じを漂わせ音楽に強い影響を与えている。〔譜例9〕最後の4小節 'die noch keiner ging zurück' [まだ誰も帰ってきたためしがない] は放心状態で死こそ人生の全てであるという表現をしなければならぬ。〔譜例11〕一見単調に聞こえる第4節であるがこの '道標' の中では内的表現の頂点であろう。

[譜例 1]

Musical score for Example 1, piano accompaniment. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has two flats (B-flat and E-flat), and the time signature is 2/4. The music features a series of chords in the right hand and a more active bass line in the left hand.

[譜例 2]

Musical score for Example 2, vocal line. It is a single treble clef staff in 2/4 time with two flats in the key signature. The melody is a series of eighth and sixteenth notes. Below the staff, the lyrics are written: "durch ver - schnei - te Fel - sen - höhn, durch Fel - sen - höhn?"

[譜例 3]

Musical score for Example 3, piano accompaniment. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has two flats, and the time signature is 2/4. The music features a series of chords in the right hand and a more active bass line in the left hand. The dynamic marking *pp* is present. The lyrics "Was ver -" are written at the end of the first staff.

[譜例 4]

Musical score for Example 4, piano accompaniment. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature has two flats, and the time signature is 2/4. The music features a series of chords in the right hand and a more active bass line in the left hand. The dynamic marking *pp* is present. The lyrics "Was ver - meid ich denn die" are written at the end of the first staff.

[譜例 5]

In ei - nem Bächlein

The score for Example 5 consists of a vocal line and piano accompaniment. The key signature has three flats (B-flat, E-flat, A-flat), and the time signature is 7/8. The vocal line begins with a rest, followed by the lyrics "In ei - nem Bächlein". The piano accompaniment starts with a *pp* dynamic and features a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes. A sixteenth-note triplet is marked with a '6' and an accent (>) in the final measure.

[譜例 6]

Ein Fi - scher mit der

The score for Example 6 consists of a vocal line and piano accompaniment. The key signature has three flats (B-flat, E-flat, A-flat), and the time signature is 7/8. The vocal line begins with a rest, followed by the lyrics "Ein Fi - scher mit der". The piano accompaniment starts with a *pp* dynamic and features a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes. A sixteenth-note triplet is marked with a '6' and an accent (>) in the final measure.

[譜例 7]

tö - rich - tes Ver - lan - gen treibt mich in die Wü - ste - nei - en,

The score for Example 7 consists of a vocal line and piano accompaniment. The key signature has one sharp (F#), and the time signature is 7/8. The vocal line begins with the lyrics "tö - rich - tes Ver - lan - gen treibt mich in die Wü - ste - nei - en,". The piano accompaniment starts with a *fp* dynamic and features a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes. A sixteenth-note triplet is marked with a '6' and an accent (>) in the final measure.

[譜例 8]

pp

pp

p

[譜例 9]

ohne Ruh, und su - che Ruh, und ich wand - re son - der...

Ma - ßen, oh - ne Ruh, und su - che Ruh, und su - che Ruh.

cresc.

p

[譜例 10]

Ei-nen Wei-ser seh ich ste - hen un-ver - rückt vor mei-nem

decresc. *pp*

Blick, ei-ne Stra-ße muß ich ge - hen, ei-ne Stra-ße muß ich ge - hen, die noch

cre - - - - - scen - - - - - do

65

kei - - - - - ner-ging zu - rück.

f *p*

[譜例 11]

die noch kei-ner ging zu - rück.

**The Schubert Song Cycles “Winterreise” Vol. 5
— Performance and Interpretation for the Singer and Pianist —**

Nonogaki, Fumishige*

声楽の分野では演奏が全てである。その演奏の助けとして歌手とピアニストの為の演奏法と解釈、分析が必要であり、重要となってくる。現在、声楽の分野ではそのような文献がまだ不十分である。特にドイツ歌曲の分野では世界で最も優れている詩人の作品に最も優れている作曲者が曲をつけていることでもよく知れている。今回はシューベルトの最高傑作、歌曲集「冬の旅」全曲をとりあげてみた。自分がドイツ歌曲専門の歌手であるため、ドイツの最高芸術作品であるドイツ歌曲の演奏法と解釈に注目している。

キーワード：シューベルト， ヴィルヘルム・ミュラー， 冬の旅， 歌曲集